



にゅーすれたーふじやま・長泉

東京マラソン2012「東京がひとつになる日」に参加して



2012. 3

今月号はふじやま店の高橋康営業の体験談です。

パナソニックエイジフリー介護チェーン

2月26日朝9時、東京都庁前です。大勢のランナーが庁舎を取り巻くように整列しています。気温は6度でしたが寒さを感じません。私がいる所から、スタートラインの方を見れば、ランナー達の頭上にうっすらと陽炎が立っています。9時10分花火が打ち上がり、先頭から順に有明に向けて3万6千人のランナーが走りだします。私は走り出すのに5分ほどかかり、実際のスタートラインを通過したのは14分後でした。マラソンを始めて3年、今までの4時間の壁を超えたい一心でした。スタートライン通過と同時に計測開始。これで1キロごとにペースチェックを行いスピード調節が行えます。5キロ通過時点のタイムは26分ちょっと、このペースでいけば4時間以内が狙えます。このころになると周りを見渡す余裕が出てきます。感動したのは沿道を埋め尽くす観衆からの応援が他のレースとは比べられないほど熱いことです。ベビーカーに乗った幼児から車いすに乗ったおじいさんまで途切れることなく、見ず知らずのランナー達に応援をしてくれます。一般人の私にまでハイタッチをしてくれたり、色々な声援を送ってくれました。30キロを過ぎて少し疲れて、歩きたくなると、つい元気をもらいに側道よりのコースをとってしまうほどです。そんな時「東京がひとつになる日」の意味がわかりました。ランナーも観衆もマラソンを完走したい、させたいという目標の下にひとつになっていました。つまり演者と観覧者ではなく両者が一体になっているのです。

私と共にゴールを目指すランナーの中にはメッセージを背負って走る方が大勢いました。目立ったのは被災した東北からの参加です。1年たっても好転しない状況のなかでもあきらめずに挑戦していく力強さに感動しました。台湾等外国からの参加者も大勢見えていて“日本と共に”というようなメッセージをウェアに書いている人が目につきました。私は何のメッセージも持たず、ただ走ることに参加していました。それを少し恥じました。来年も参加することが出来たら何かメッセージを発信しようと決心しました。

3時間59分20秒、これが私のフィニッシュタイムです。ギリギリでしたが念願の4時間を切れました。これは沿道からの声援に後押しされ、前を走るランナーに引っ張られた結果だと思えます。マラソンは個人競技ではなく団体競技なのかもしれません。

ゴール後はただ、一緒に走ってくれたランナー、声援を送ってくれた観衆、給水などでサポートしてくれたボランティアの皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。私はこれからも走り続けていきたい。「ランナーと声援者がひとつになる」熱いステージを駆け抜けていきたいと強く思いました。 高橋 康

東京マラソン完走。本当におめでとうございます！

月曜日の朝礼では私はじめスタッフみんなが自分のことのように喜び合いました。2～3日はきっと痛い足を引きずりながら営業に回ったことでしょう。

そして更なる目標を持ったようです。がんばってください。

応援しています。

渡邊啓視

